

ユーロックテクノパーツ

「ラインキヤップ」仕様変更

要望受け改良、作業性良好に

(株)ユーロックテクノパーツ(神戸市西区、竹中福康社長)は、7月1日に発売した「ラインキヤップ」について作業性の向上を目的として仕様を一部変更した。今後も要望に応じて改良を続けていく方針であり、ラインアップの拡充により「ゆるんだら分かる」仕組みを広めていきたい考えだ。

同製品は「ゆるんだら分かる」をコンセプトとした樹脂製のねじ用製品。既存のボルト・ナットに装着することでゆるみ判別機能を付加する。カバーと専用のワッシャーで構成されており、樹脂部に表示されている「合いマーク」の位置によりゆるみを判定する。独自開発の樹脂を採用し

「ゆるんだら分かる」ため耐候性・強度に優れており、屋外での使用が想定されているほかインパクトレンチによる締め付けにも対応している。また再利用も可能となっている。

今回仕様を変更した新ラインキヤップでは従来ボルトを覆う形となっていたカバーの面積を小さくすると共に、締め付け

時に大きな負荷がかかる高強度ボルトに対応する。ため専用の金属ワッシャーを標準仕様とした。こ

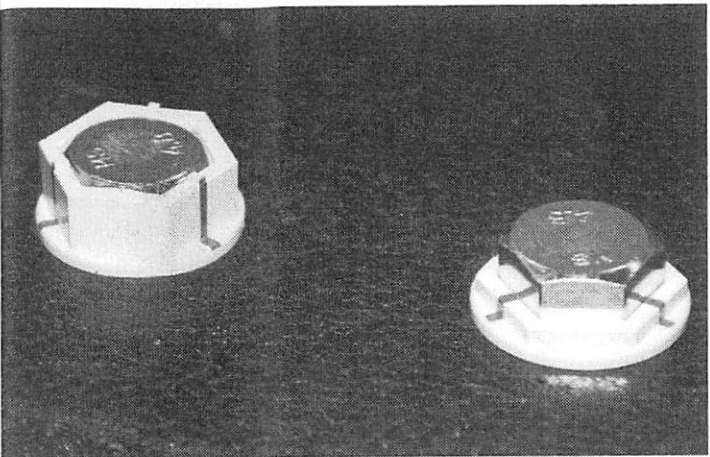
のほか従来両面で使用できた樹脂ワッシャーに表面加工を加え、使用面を設定している。

竹中社長は新ラインキヤップについて、「販売以来多数の問い合わせを受け、需要に応えるため急遽仕様を変更することとなった」とした上で、「カバーの面積を減らしても緩み判別の問題はないことが確認できた」と説明した。またサイズのラインアップとしてM16・20に加えM22を追加。

今後も要望に応じて追加していくほか、加えて基本の白(本体部)・十赤(合いマーク部)以外の各色への対応を開始している。

(株)ユーロックテクノパーツ 兵庫県神戸市西区白水3-1-27、電話078-978-6766

※ラインキヤップについてはホームページ(httP://www.eurok.co.jp)より検証動画を観ることができる。



仕様変更前(写真左)と新ラインキヤップ(右)